

北海道高等学校

国語教育研究会

会報 vol.12

2025/1/9

第12回研究セミナーを終えて

北海道高等学校国語教育研究会会長
(北海道石狩翔陽高等学校長) 吉村 教賢

本研究会は、平成22年に本道で開催された「全国高等学校国語教育研究大会」をきっかけに、大会終了後も先生方のネットワークを形成し、本道の高等学校国語教育の充実・発展に資することを目的として平成24年に発足し、今年で13年目を迎えました。発足当初は200名を超える会員登録がありました。コロナ禍やICTが加速したことによる研修スタイルのオンライン化によって、会員登録数、セミナー参加者数は減少傾向



にあり、事業や活動がこれまでどおりできないのではと危ぶまれていました。

こうした中、今年度は、登録者、セミナー参加者ともにコロナ禍前に戻り、8月のセミナーやその後の情報交換会においても開催の目的を達成することができました。ご登録、ご参加いただいた先生方に感謝申し上げますとともに、次年度以降も多くの先生方をお誘いいただき、ご参加いただくことを期待しております。

さて、本道においては、高校の小規模化が進んでおります。それに伴い、全道の公立高等学校のうち約三割の学校で、勤務校に国語の教員が一人しかいないという状況にあり、さらには、こうした小規模校では、教員としての勤務経験年数が比較的浅い先生が多く勤務されているというのが現状です。授業について相談や交流をしたくても、できない先生がかつてより増えてきております。

我々、国語科の使命は、生徒に確かな言葉の力を身に付けさせることです。「思考、判断、表現力」を支えるのは言語能力です。「主体的・対話的で深い学び」の実現、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のためには、国語科が担う役割に大きなものがあると感じております。生徒によりよい授業を届けるためにも、研修と交流の機会を充実させ、北海道の高校国語教育の充実に努めなければならないと感じています。

高国研が、先生方の授業研究や交流の機会となるよう活動の充実に努めて参りますので、より多くの先生方のご参加をお待ちしております。



第12回研究セミナー各講座の様子

講座A 札幌平岸高教諭 高松洋司
生成AIで、「ラクショウ(楽詳)」小論文指導



○ 現在受け持っている生徒の中で、小論文対策をして欲しいという声が上がっているものの、自分は高校時代に小論文を扱わず卒業したため、小論文指導に不安を抱えていました。しかし、今回高松先生の講座を受講したことで、不安よりも生成AIを活用して、小論文指導をやってみたい！という気持ちが強くなりました。受講することができて良かったです。

講座B 札幌手稲高教諭 太田幸夫
「現代の国語」との連続性を視野に入れた「論理国語」の制度設計と実際 ～「書く」領域の指導で「読む」領域の資質・能力の涵養を目指す～



○ 今後の授業やアイデアの刺激になりました。ありがとうございました。
○ 書かせるためのスモールステップの作り方が具体的にイメージすることができました。ありがとうございました。

講座C 札幌東陵高教諭 増富 功

Google Classroom を使った主体的・対話的で深い学びを実現するための“ちょっとした”工夫



- 振り返りの Google Form を統一することによって、生徒の学力の推移がスプレッドシートに視覚化できるというのは盲点でした。また、Miro の外部アプリの存在を知れて良かったです。

講座D 札幌東豊高教諭 大澤拓実

現代の国語における思考力・判断力・表現力の育成とその評価方法



- 生徒が続けられる、きつくない言語活動を組織するために、「実場面」教材を用意するという授業づくりの原則を体得できました。質問にも丁寧に答えていただき、大変有意義な講座でした。

講座E 旭川西高教諭 広瀬 篤

添削指導だけじゃない！生徒の「論理的な文章を書く」力を育てるための試み〜ルーブリックを活用した相互批評を通して、論理的な文章を書こう〜



- 読む活動を通して伝わる文章について考えさせ、整理させることで、「どう書けばいいか」を考えさせ、書くことへの指導につなげる実践は、大変面白く、汎用的な書くことの力を身に付けさせる実践だと思いました。

講座F 本別高教諭 丸山収也

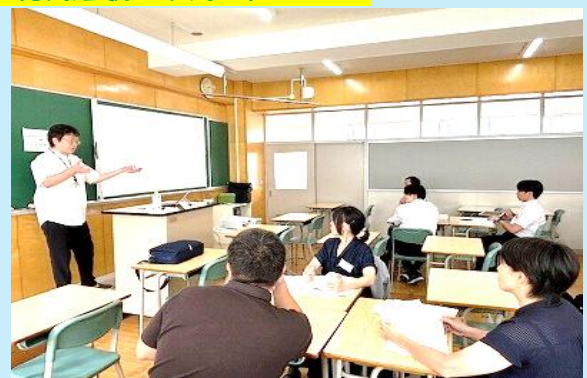
「国語の授業×行動特性学」
～生徒の長所伸展をめざして～



- 生徒理解の新しい切り口を学べた講座でした。また、多様な思考・行動の生徒がいること、グループワークにおけるグループを意図的に編成することで、話し合いの効果や方向性が変わるということも興味深かったです。

講座G 札幌国際大准教授 大村勅夫

文学指導を再考してみましょう!!
～現代短歌の活用を軸として～



- 短歌は授業でなかなか扱いづらいイメージがありましたが、講座を拝聴しすぐに実践してみたいと思いました。特に、ICT との相性も良さそうなので来年度タイミングがあれば授業作りの参考にさせていただきます。

講座H 高校教育課主査 鎌田康平

目指せマスター！クイズ「学習指導要領の世界」& 発問力再考
「その問いで答えられますか？」

講座I 高校教育課課長補佐 滝田尚誠
言語文化における「書くこと」の指導を構想してみましょう

**令和7年度 第13回研究セミナー は
令和7年8月8日(金)開催予定 です！
多くの皆さんの参加をお待ちしています！**